

0472

第七潜水隊司令部長殿

第七潜水隊機密第六〇號ノ二二

自昭和十八年三月一日
至同年三月三十一日

伊號第六潜水艦戦時日誌

第七潜水隊

六月五日送付



九、八、七、六、五、四、三、二、一

醫學 機械 兵船 作參 令人 經
勢衛 関卷 体戦 考違 員過 日
生

(別紙第 一) 過 報現 告狀
(別紙第 二) 概 要
(別紙第 三) 要
(別紙第 四)

四、三、二、一

(終)

一、經過

自昭和十八年三月一日
至同年三月三日
伊號第六潜水艦戰時日誌

- (一) 一般情勢 省略
- (二) 敵軍情勢 省略
- (三) 任務編制配備

第六艦隊	先遣部隊	濠洲東岸通商破	濠洲東岸
附屬	第一潛部隊	壞戰並機雷戰	
三月二十八日南東方面艦隊南東潜水部隊ニ編入			

(四) 行動概要 (詳細ハ伊六潛機密第一八號ニ戰斗詳報ニ據ル)

三月二日「トラック」出撃十一日。六。「ブリスベン」
 六。渚ニ到達潜航偵察ヲ行ヒ十二日北西水道外端
 ヲリ約三十渚附近ニテ潜航偵察ヲ實施十三日午後北
 西水道外端ヨリ約六渚ノ地矣ニ接近沈坐日没後
 離底機雷敷設ヲ行ヒ爾後専ラ交通破壊ニ從
 事セリ

三月二日先遣部隊電令作第三。三號ニ依リ急據
 ラボールニ回航（ラエ輸送準備）ヲ命ゼラレ即日濠
 洲東岸水域ヲ離レ三月二十七日「ラボール」着輸送
 準備ヲ行フ

濠洲東岸行動中十一日及十七日各一回宛敵輸
 送船ヲ襲撃シモ大効果ナシ

二人員ノ現状

(一) 准士官以上官氏名 (昭和十八年三月一日現在)

職	官	氏名	記	事
潜水艦長	少佐	井筒紋四郎		
砲隊長兼分隊長	大尉	浦田正茂		
水雷長兼分隊長	同	菅昌徹昭		
航海長兼分隊長	中尉	布施定武		
砲組(機)機長	少尉	伊原一衛		
砲組(砲)砲長兼分隊長 有兼第一二分隊長	同	丸山四郎		
同 (第三分隊長)	同	桑畑寛		
同 (掌水雷長)	同	佐藤吉太郎		
同 (電機機長)	機曹長	佐々木正雄		
隊附(航海士)	候補生	井上誠一		

(二) 下士官兵員数調 (昭和十八年三月一日現在)

隊附	乘組	科別	
	二四	下官	兵科
	二	兵	飛行科
		下官	整備科
		兵	機関科
	五	下官	工務科
	八	兵	看護科
	一	下官	事務科
		兵	計
	一	下官	
	二	兵	
	八		
二	二		

第六師司令部
 第七師司令部
 軍中尉 大久保正英

<p>八月八日 P 6斤</p>	<p>五月二日 P EB</p>	<p>五月二日 P 155</p>	<p>五月二日 P 155</p>
<p>伊大港 伊大港 伊大港</p>	<p>伊大港 伊大港 伊大港</p>	<p>伊大港 伊大港 伊大港</p>	<p>伊大港 伊大港 伊大港</p>
<p>南太平洋方面、 本電通信部、 南太平洋方面、 本電通信部、 南太平洋方面、 本電通信部、</p>	<p>南太平洋方面、 本電通信部、 南太平洋方面、 本電通信部、 南太平洋方面、 本電通信部、</p>	<p>伊大港一日P T 出港 三日一五二度一五分東 四日一五三度四分東 五日一五三度四分東 伊大港二日P T 出港 四日一五三度五分東 五日一五三度五分東 何レモ濠洲東岸ニ進出(各地吳ハ。。。位置)</p>	<p>七月 地吳メシホ 二六日 マ味方識別全部標示ス</p>
<p>155</p>	<p>155</p>	<p>155</p>	<p>155</p>

0870

<p>一日九五 P 6F</p>	<p>一日八三八 IS 塔樺堂</p>	<p>一日八三八 伊大春極長</p>
<p>一日八八 伊大春極長</p>	<p>一日二一〇 伊大春極長</p>	<p>一日二一〇 伊大春極長</p>
<p>機密第一。九一五三一番電 敵輸送船ノ通信ノ間スル参考事項(通信謀報)</p>	<p>機密第一。八三八。三番電 伊大春本部隊命令第一號 黎明迄ハコエ方面救助作業終了。只二月二十日 航路ノ交通破壊ニ任ジツ南南下ニ于西日連 ニ達スル如ク行動ヨリ爾後ノ行動機密第一番 水部隊命令作第一號所定トス</p>	<p>伊大春機密第一。八三三番電 一三月十三日一八四第一案ニ依リ春航義設ス 敷設線モルトシトシノ三三度ニ一三度ヨリ起 トシニ度方角ニ。。米水深ニ四米ヨリ三四 米(確實) 二港灣偵察並ニ敷設運動中敵艦戒兵力ヲ認メ ス隱密裡ニ成功セルモト信ズ 三S地真ニテニ圍襲撃(十一日及十七日晝間) 効果ナシ</p>

1890

P
6F

二カ日
ニ史

E B

四 輸送船ハ岬南灯台ヲ一五哩離レ航行略
確實ニシテ敵輸送ハ頻繁ナリ

六 機務第一九。六四七三八番電

機務EB命令作第一五號(三月十七日發令)要旨
九ノ通

一 EBハ特令スルモノ外大部ヲ舉ゲテ南太平洋方
面ニ作戰シテソロモン諸島及東部ニ進出ス

二 通スル敵補給路ノ遮断並ニ敵艦隊攻撃ニ
任ス

三 伊一六番。伊二。春欠ヲ第一番水部隊ニ伊一六
番ヲ第二番水部隊ニ編入ス

伊二六番。四月十五日。ヨリPT入港迄

一時第一番水部隊ニ編入ス

三 作戦海面區分

第一 潜水部隊 東經一六。度以東

第二 潜水部隊 同以西 濠洲東岸

四 各部隊ノ行動
イ 伊二六番。伊一六番。ハ現行動續行中ナリ

5850

三	二	一	日
3-4 153-10E			位置 正午
二五 。三	三三 。一	二二 。五	天候 晴 風速 同 視界 同
一五 。五	二五 。九	二二 。三	日没時
隊水港七第隊艦六第隊艦合眼	隊部水港一第隊部遣先	隊部水港一第隊部遣先	任務別特
九 。〇	二 。〇	一 。〇	出撃準備
基 。〇	餘 。〇	各 。〇	經過概要
			記 事

五、作戰經過概要
特ニナシ

四、参考

7

二 一	一 〇	九
26-30 S 153-51 E	25-0 S 156-56 E	22-22 S 156-47 E
春晴 中航	春晴 中航	二五 二四 南墨 東 五七 南 二四 東 〇八
一五 二五 一八 〇二	一四 二四 一八 〇五	一五 二四 〇八
同	右	
同	右	
同	右	
一四 一八 一七 一六 一七 一四 一八 〇二 〇五 〇二 〇五	一七 一七 一五 一五 一五 一五 一五 一五 一五 一五	
追跡ヲ止ム	長時間春航	
船ヲ見 テ射(雷) ヲ放ス ナシ	第一春 第一號 第一號	
一四〇度方向一〇〇〇	〇四〇 ブリスバン沖六〇哩ニ 達ス	

8.

6870

二 一	二 〇	一 九	一 八
28-27.5 S	27-48 S	27-51.5 S	26-44 S
153-58 E	155-0 E	155-6.5 E	155-13 E
中 航 春 晴	中 航 春 晴	中 航 春 晴	中 航 春 晴
八〇・一〇 二四・五 二四・七	八〇・一〇 二四・五 二四・七	八〇・一〇 二四・五 二四・七	八〇・一〇 二四・五 二四・七
同	同	同	右
同	同	同	右
同	同	同	右
一〇四・〇 一〇四・四 一〇四・七 一七六 浮上	一〇四・〇 一〇四・四 一〇四・七 沿岸二向 浮上	一〇四・〇 一〇四・四 一〇四・七 浮上	一〇三・五 一〇四・〇 一〇四・五 浮上
〇四・七 印 密 印 今 令 作 第 一 五 受 領		同 右 密 印 今 令 作 第 一 五 受 領	動 岸 約 白 浮 行

0050

二 五	二 五	二 三	二 二
10-50S	14-50S	20-75	25-15S
156-50E	156-53E	156-75E	156-18E
潜航 中	三二東晴 〇九東 〇五	三二東晴 〇五 五四	三二東晴 五七 五六
三二北晴 〇八 二二	一五二東半 〇八東晴 〇四	三二東半 〇七東晴 〇六	三二東晴 〇二
	同		右
	同		右
	同		右
一〇四二五 一六二八 長時間潜航		〇四〇〇〇 〇一〇〇〇 試験潜航	〇大五〇九〇度方向三〇〇米 〇八二八〇度方向二〇〇米 〇七〇八〇度方向二〇〇米 〇六〇八〇度方向二〇〇米 〇五〇八〇度方向二〇〇米 〇四〇八〇度方向二〇〇米 〇三〇八〇度方向二〇〇米 〇二〇八〇度方向二〇〇米 〇一〇八〇度方向二〇〇米

10.

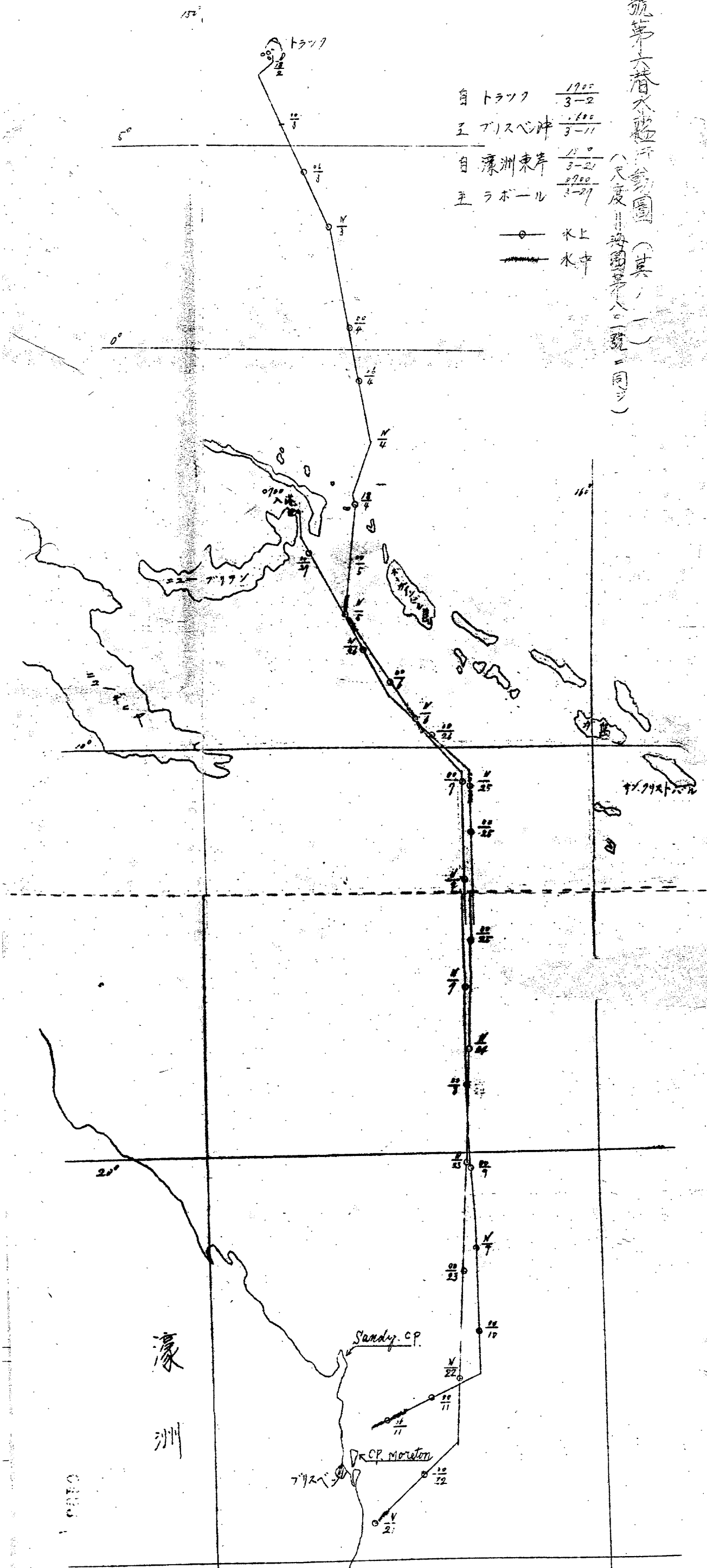
1670	二九	二八	二七	二六
	ル	—	ボ	ラ
	二九 五二 五二	二〇 三〇 六一	二〇 三一 〇二	二九 五三 五三
	一五 五二 五二	一〇 三二 〇一	二〇 三一 〇	二〇 二九 五二
	同			右
	陳部永潜面方東南	同	同	右
	事從二備洋送輸江ヲ	同	同	右
	一五 五二 五二		〇五 三一 六二	〇九 〇一 〇一
	領地ノツク		ニホール入港	急米一棧ノ認ム

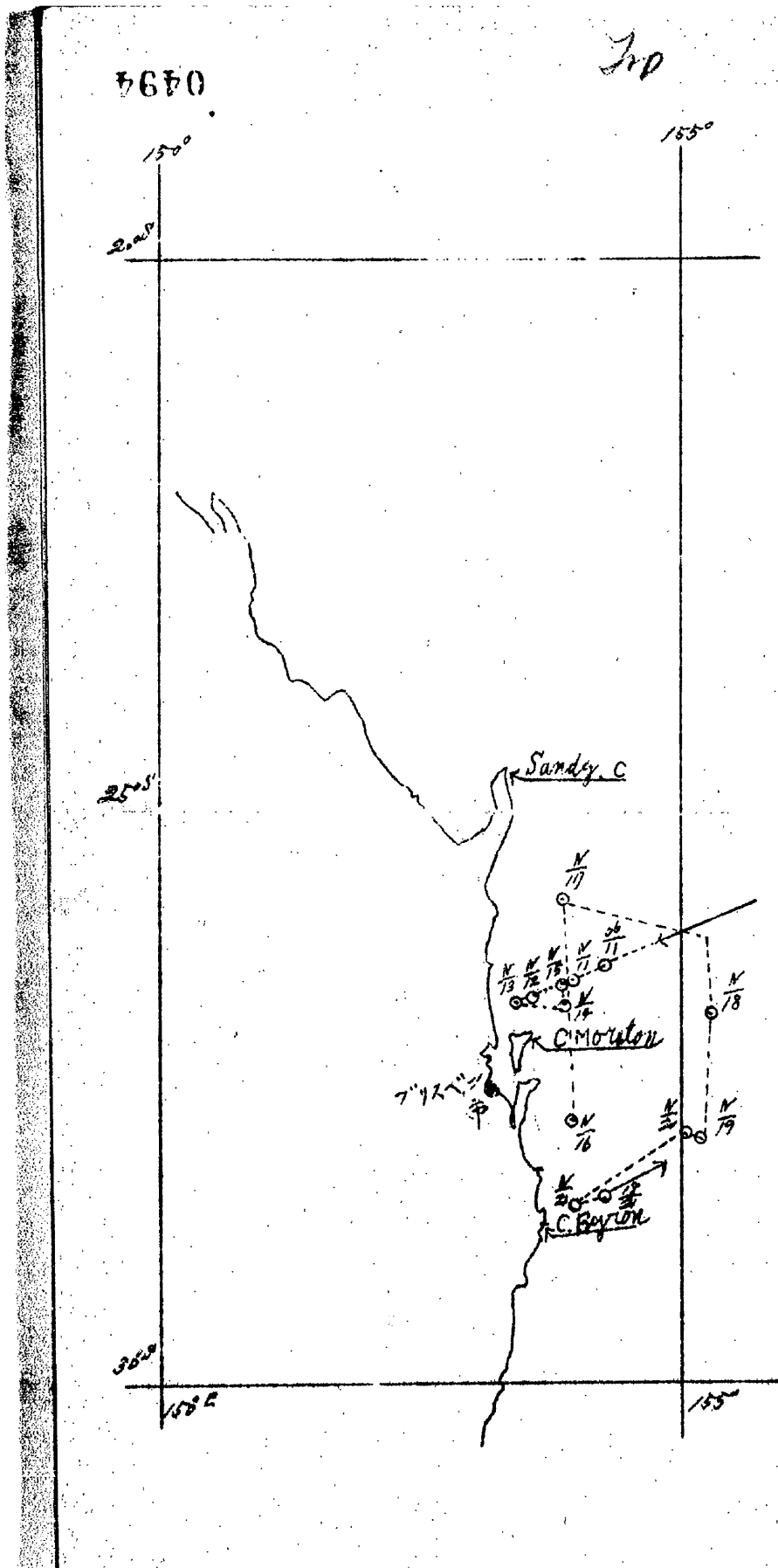
577

伊號第六潜水艦航行記録(其ノ一)
(天度ニ海圖ヲ入ルニ號ニ同シ)

自	トラック	1700
		3-2
至	ブリスベン	1800
		3-11
自	濠洲東岸	1900
		3-21
至	ラホール	2000
		3-27

○ 水上
— 水中





3rd

0494

伊勢第六潜水艦行動圖(其ノ二)
 自三月十一日。大。八。〇。〇。
 至三月二十日。大。八。〇。〇。
 (尺度ハ海軍第八。號。同シ)

9670

First sell

号

紙第一
船体

(1) 臨載準備

完備

(2) 船体附属物ノ損傷亡失

十シ

(3) 改造修理新設

工事内容(船体) 年月日 工事施行要領

釣合 叩筒 一八三二 一八三三 一八三二 一八三二

(4) 附属物件積込積却

十シ

別紙 第二

兵器

(一) 臨戦準備

完備

(二) 主要兵器故障鉄損

十シ

(三) 改造修理新設

十シ

(四) 主ナル消耗兵器

科別種	類	数	量
水雷科八九式魚雷			四

不保存手入

八九式魚雷一 第八潜水艦基地隊預入

列式第三

機関

(1) 艦艇準備

一 役務及役務定員

(1) 役務

第六艦隊第七潜水隊

目下本部隊第二潜水部隊ニ編入中ノ處三月

二十八日附南東方面部隊南東潜水部隊ニ編入

(2) 役務定員(見定員)

1. 准士官以上 4/4

2. 下士官兵 4/4

二 乗員ノ練度

ト多ク出撃ヨリ、ボール入港ニテ約二十五日行

動期間中願志満々士氣極メテ肝盛ニ終始シ乘員
ノ統度ハ最前ニ潮ニ連シ居ルモノト認ム

三機間ノ概要

- (1) 主内火機械
全力發揮ハ左支ナシ
- (2) 主電動機
全力發揮ハ左支ナシ
- (3) 主蓄電池
完荷ハ最近全放電ノ時ニ至ルニ至リ
容量ニ一〇〇パーセントニ至ルニ至リ
- (4) 補助機械
左記ノ池完備
補助發電機

昭和十七年十一月四日

(四) 機関ノ故障ノ欠損

發煙振動其大ニシテ故障出ル者6/10全力以上發揮
不可能時機ヲ得次第外換装ヲ要ス

2. 冷却機軸

高温海面ニ於テ冷却能率極メテ悪ク音響音大ニシテ
聽音全能發揮ニ支障アリ時機ヲ得次第外換装ヲ要ス
ト換装ヲ要ス

(五) 船体其ノ他

復務差支ナシ

(六) 現状ニ於テ堪ヘ得ベキ見込

最大力量 一〇〇〇〇
最大速度 一八節
機中 九節

0050

(二) 機関動作

ハ 改造修理新設
託事ナシ

<p>蓄電池 排気管 穿孔</p>	<p>事故名</p>
<p>ニ原因 腐蝕衰朽</p>	<p>状況 原因</p>
<p>ニ復旧 所要人員六名 所要時間二一。</p>	<p>処置</p>

14

任	先遣部隊	昭和十八年三月二日	出港地	トランプ	原	速	節	強	速	一	載	速
投箱年月日	昭和十八年三月二日	昭和十八年三月二十七日	トランプ	原	速	節	強	速	一	載	速	
投箱年月日	昭和十八年三月二十七日		トランプ	原	速	節	強	速	一	載	速	
原	速	節	強	速	一	載	速					
運送時数	時分	三二	五六	七八	一一	二四						
運送時数	主線	三五	三	一	五	八						
時分	紅燈	一九	五	一	五	〇						
總航程	水上	四五	三五	五	〇							
(程)	水中	五	八	五	〇							
行動用	重油	二	七	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
燃料(重)	軽油	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
行次	運送時数											

注液	充電法				浮上時主要使用力(節)	燃費(燃費)	洋航所用燃費(燃費)	音航所用主機材	音航所用補發
	片磁機充電	充電	充電	充電率					
二〇〇〇	一〇〇〇A	六〇〇A	四〇〇A	六—〇	一〇八四%	一三〇	七一三五〇	四九七五〇	二一六〇〇

16

0090

(ハ) 主機械機動機使用時数

主機械制式及数	期 間	使用時数		總航程(哩)	機動機時間	機動機種類及数	機械使用時数
		右舷	左舷				
一號七型内火機械 二基	自昭和十八年三月一日至同年三月三十日	三六〇—一五	三六六—二三	四五三五〇	十シ	移動式八馬力揮發油機械 二台	〇

(補助機械使用時数(時一分))

期		間		期		間	
昭和十八年三月一日		昭和十八年三月十日		昭和十八年三月十一日		昭和十八年三月二十日	
縦管式排氣蒸化器		二台		蒸化器		二台	
計量力		四〇。起		計量力		一六〇。起	
右舷		一〇〇。		計量力		一四〇。起	
左舷		一六〇。		計量力		一六〇。起	
製式及枚		一〇		製式及枚		一〇	
蒸酒器		一六〇。起		製式及枚		一〇	
計量力		一六〇。起		製式及枚		一〇	
製式及枚		一六〇。起		製式及枚		一〇	
本却機		一六〇。起		製式及枚		一〇	
二號		一六〇。起		製式及枚		一〇	
一號		一六〇。起		製式及枚		一〇	
七九一四〇		一六〇。起		製式及枚		一〇	

0507

正立空気 圧縮機	補助空機	製造年数 計測方法	製造年数 計測方法	三九一三 毎時一五〇リットル 七〇〇立派気	〇 四五〇キロワット マン無刺噴油單働四サイクル 一〇台
-------------	------	--------------	--------------	-----------------------------	---------------------------------------

(1) 燃料潤滑油消耗品搭載

真水			造水額			真水			期 間
搭載額 (飛)	合計	解凍	合計	電池用	飲用水	搭載額 (飛)	合計	電池用	
二五〇〇〇	〇	三五〇〇〇	三〇〇〇	〇	三〇〇〇	五八二〇〇	五二〇〇	五三〇〇〇	昭和十八年三月一日至昭和十八年三月十日

(2) 造水表並真水搭載

8.

系 肩 部 各 部 の 油	油		滑 潤		料		燃		搭 載 所 要 時 間	搭 載 場 所	期 間
	二 部 内 部 鏡 油	一 部 内 部 鏡 油	二 部 外 部 鏡 油	一 部 外 部 鏡 油	石 油	機 油	軽 油	重 油			
○	○	○	○	○	○	○	○	二 二 二 ○	一 一 四 一	ラ ボ ー ル	自 昭 和 十 八 年 三 月 一 日 至 昭 和 十 八 年 三 月 三 十 日

極
速
丸
模
付

(又) 燃料 潤滑油 消費費額

潤滑		部外		燃料		用常平		用動行		至要		期
至要		行常		普通		一號		輕		重		間
重油	輕油	重油	輕油	重油	輕油	重油	輕油	重油	輕油	重油	輕油	自昭和十八年二月一日至昭和十八年三月三十一日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一三二五 (補給燃料) 四四五五 (五七八) 飛
												二七六〇〇〇
												二〇〇〇
												一五二七

ル 機 関 待 機
十 シ

(四) 機 関 の 整 備

本 期 間 に 殆 ど 作 戦 行 動 に 費 せ し 機 関 整 備 の 時 機 が
月 末 に 於 テ 一 通 大 畧 の 檢 査 手 入 を 施 行 シ タ ル に 過 ギ ズ

(三) 工 作

(一) 艦 内 工 作 件 数 (竣 事 数 / 要 求 件 数)

木 工	金 属	種 別	種 科
	22	海 術	航 砲
	0	信 用	水 通 信
	0	機 関	機 工
	8	機 関	機 工
	0	機 関	機 工
	0	機 関	機 工
	0	機 関	機 工
	0	機 関	機 工
	11	機 関	機 工

(2) 艦内工作工数

細別		種別
0	右鍛	金
1.0	械機	
1.0	上仕	
0	鍍金板	
0	造鑄	屬
3.0	肝一平	
1.0	頁人延	
	具木	木
	体彫	
	肝一平	工
	頁人延	

(3) 艦内工作機械使用時数(時一分)
 旋盤 三五—。

(4) 艦内工作用材料費額
 1. 金屬材料

品名	種別
銀道	金
鋼棒	
鋼板	
板鋼	
板刀	
鋼銀	
鋼真	
鋼自	
棒真	
板真	
棒銅	
板銅	
糊付	
砂研	
酸燻	
板金	
板鉛	

非金属材料

修理材料	主要材料	呼称	品名	種別
				木
				材
		糸	釘	甘
		"	ナバ	ス
		"	ス=ワ	ノ
		"	クツラ	
		"	銀線金	
		"	灰口硬	他
		米	皮半	
		立	立木	

修理材料	主要材料	呼称
		個
		"
		枚
		"
		丸
		冠
		"
		個
		枚
		箇
		枚
		冠
		"
		"
		"
		"

0515

(カ)
十 載 訓
シ

別紙第一

警務衛生

一、警務衛生一閱スル令達及報告等類

一、令達書類

発行月日	成	密	番	號	件	名
二月一日	南	第	一	號	三	豫防接種母體因ル由達

二月一日南第... 豫防接種母體因ル由達

二、報告書類

二、治療品、被服糧食飲料水其他衛生ニ関スル物品、

搭載補給

一、治療品

二、被服

三、糧食

搭載品ニ補給ナシ

用 右

柔一ル在泊中ハ五糧品毎日四部ヨリ搭載

四、飲料水 トリック 出港時 五三配

三、衛生ニ関スル施設改造ナシ

四、寄港地ノ衛生状況

「ラポール」ニ於テ「デング」熱及「マラリア」流行アリ尚A型

「バラチクス」及細菌性赤痢ノ散發ヲ見ル

五、被服寝具防寒防熱換氣入浴等醫務衛生ニ関係す

項

防熱換氣、艦内循環並ニ冷却、通風及行動中波浪

少キ日長時間浴航ノ前後ニ前後部ハツチ開放

入浴十八日、衛生官以上、下士官兵ハ二十ニ、二十ニ、二十四日

間艦内ニテ洗身セシム「ラポール」在海中ハ半艇宛入湯

上陸「ラポール」在海中ハ毎日短時間入湯上陸(ハ陸基)

セシメ尚半艇宛ハ陸基兵舎ニ陸泊許可

洗濯 十九、二十、二十一日 艦内洗濯日シム
 六衛生状況

(1) 受療患者状況

口内譯

受療患者	延教	受療患者	延教
三月二五	就業経業休業計	外傷平病	二
六二二一五三			
一			
五			
九	計		

養育日等	級傷	病	名	受療日	延教	完事
一六一	一級	背左排骨	神經麻痺	三	一	完事
三二一	一級	背	徵毒第二期	三	一	同
同	一級	背	同	三	一	同
同	二級	背	同	三	一	同
三二四	同	急性虫様	突起炎	一	〇	全好
三二一	同	背カール	性黄疽	一	一	完事

